

資 料

信州大学農学部附属演習林気象データ

—1977年1月～1977年12月—

宮崎敏孝・橋爪克次

信州大学農学部 砂防工学研究室

観測諸元

観測所位置

観測所名	北 緯	東 経	海 抜
手良沢山	35°53'15"	138°02'50"	990 (m)
西 駒	35°49'22"	137°51'54"	1,235 (m)

観測・記録計器の仕様

計器部位		気温・地温	降水量
受 感 部	型式名称 規格	測温抵抗体 J I S Pt 100Ω 0°C class 0.5	パイプヒーター付転倒ます型 口径 200mm ヒーター 300W 電接 0.5mm/1接点
	型式名称 形式	電子式抵抗温度記録計 横河電機製作所 E R B 6-30-34 (3W)	電子式受信記録計 横河電機製作所 E R B 6-10
記 録 部	測定範囲	-50~0~50°C Pt 100Ω	0~10mV
	変換器		中浅測器(特)雨量変換器
	記録方法	色別打点式(6打点)	色別打点式(6打点)
	打点間隔	5秒	5秒
	平衡時間	2.5秒	2.5秒
部	記録紙繰出し	25mm/h 同期電動機駆動	25mm/h 同期電動機駆動
	記録紙	折りたたみ式, 一巻一ヶ月余 時刻線30分毎, 示度1°C毎	折りたたみ式, 一巻一ヶ月余 時刻線30分毎, 示量1mm毎

注) この資料の自記紙の読取り, 集計は宮崎, 橋爪が行なったが, 計測器の保守, 記録紙・インクの交換, 補充は林, 唐木(義), 安積, 那須野, 唐木(武), 清水の演習林職員によって行なわれている。

読取・集計の基準

(1) 読取り

- (i) 時間の区切：時刻指示線の後側とする。
- (ii) 気温・地温：記録打点線の一部が温度指示線に接する場合はその示度，上・下指示線に接しない場合を両示度の中間値として読取単位 0.5°C とする。
- (iii) 降水量： $0.5\text{ (mm)} \times$ 各1時間のパルス数とする。
- (iv) 時間の修正：自記紙に指示が記入されている場合にはそれに従って時刻線を移動させて読取る。

(2) 集計

(i) 気温

- (a) 平均気温：3, 6, 9, 12, 15, 18, 21, 24時の8回記録値の平均値
- (b) 最高気温：当日9時より翌日9時までの最高の記録値
- (c) 最低気温：前日9時より当日9時までの最低の記録値
- (d) 9時：当日の9時の記録値

(ii) 地温：地表，地下15cm, 30cmの当日9時の記録値

(iii) 降水量

- (a) 日量：当日9時より翌日9時までの1時間ごとの読取値の合計
- (b) 時間最大：当日9時より翌日9時までの1時間ごとの読取値の最大値

(iv) 欠測：読取り不可能な場合はすべて欠測とし，理由を末尾の記号で示す。

- (a) 停電による欠測 ($\times a$)
- (b) 計器の修理，調整による欠測 ($\times b$)
- (c) 記録打点の乱点 ($\times c$)
- (d) 記録紙の繰出し不良 ($\times d$)，交換ミス ($\times d'$)
- (e) インクの過不足 ($\times e$)

(v) 平均，計，極値：気温，地温については平均値を，日降水量は合計を，時間最大降水量は極大値を，それぞれ，月，上旬，中旬，下旬について算出した値，()を付したのは欠測を含む場合を示す。

